

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都四条烏丸南館計画	階数	地上10F、地下1F
建設地	京都市下京区西洞院通四條下る妙伝寺町701番地	構造	S造
用途地域	市街化区域、準防火地域	平均居住人員	159 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年6月7日
敷地面積	591.26 m <sup>2</sup>	作成者	一般建築士事務所 株式会社東洋設計事務所 白井大輔
建築面積	458.78 m <sup>2</sup>	確認日	2019年6月7日
延床面積	4,234.87 m <sup>2</sup>	確認者	一般建築士事務所 株式会社東洋設計事務所 白井大輔



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 88%  
 ③上記+②以外の 88%  
 ④上記+ 88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
 Q1 室内環境: 4  
 Q3 室外環境(敷地内): 3  
 LR1 エネルギー: 3  
 LR2 資源・マテリアル: 2  
 LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2

音環境	3.4
温熱環境	2.6
光・視環境	3.2
空気質環境	4.1

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

機能性	3.3
耐用性	3.1
対応性	2.6

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.9

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0

建物外皮の	4.2
自然エネ	3.0
設備システ	2.7
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3

水資源	3.0
非再生材料の	3.5
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

地球温暖化	3.4
地域環境	2.3
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他 特になし
Q1 室内環境 遮音等級T-2以上 内装材は全てF☆☆☆☆を使用、他VOCも放散量の少ない建材を使用	Q2 サービス性能 Cat5e以上 内観パースを作成し、内装計画や照明計画について検証 耐用年数の長い内装材を使用	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー BPI=0.88	LR2 資源・マテリアル リサイクル材を一品目使用している、地域産木材を使用している 再利用できるユニット部材の使用、躯体と仕上材が容易に分別可能	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率=88% 光害チェックリストの項目の過半を満たしており、広告物照明の配慮事項の過半を満たしている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される